

北陸新幹線整備ルートに関する与党検討委員会の報告について

将来の日本全体の発展を考えれば、日本海側の国土軸になる「舞鶴ルート」が選定されなかったことは残念だが、延伸に向けて京都までのルートが固まったことは評価したい。

交通インフラはネットワーク化することによって利便性が高まり、多くの利用や交流が生まれる。早期の全線開通に向けて、これからがまさに正念場であり、関西と北陸地域が連携を強化し、早期整備を求めていくべきである。

京都が目指す「世界交流首都・京都」を実現するためにも、交流の好循環を支える基盤となる高速交通網の整備が不可欠である。経済や観光、文化などの面で関係が深い北陸地域との交流を拡大し、地域経済への波及効果を高めるためにも、できる限り早期に大阪までの開通を実現してもらいたい。

以上

平成28年12月14日
京都商工会議所
会頭 立石 義雄